

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BC\_2016(v3.0)\_AICH

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東部中学校仮設校舎賃貸借	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県豊橋市飯村北四丁目 1番1、1番2	構造	S造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	50人
気候区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年12月 予定	評価の実施日	2023年7月31日
敷地面積	7,658 m <sup>2</sup>	作成者	日置 敏和
建築面積	1,078 m <sup>2</sup>	確認日	2023年7月31日
延床面積	2,051 m <sup>2</sup>	確認者	日置 敏和



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

#VAL #VAL #VAL #VAL

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

**LR のスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3.1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性
- LR-2.2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3.1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
東部中学校仮設校舎賞状

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:  
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>												2.6
<b>Q1 室内環境</b>												2.8
<b>1 音環境</b>												3.0
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.0	0.15								
1.2 遮音		3.0	3.0	0.40								
1 開口部遮音性能		0.4	3.0	0.40								
2 界壁遮音性能			3.0	0.30								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	0.20								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	0.20								
1.3 吸音			3.0	0.20								
<b>2 温熱環境</b>												2.6
2.1 室温制御		0.3	2.6	0.35								
1 室温		0.5	3.0	0.50								
2 外皮性能		3.0	3.0	0.60								
3 ソーン別制御性		3.0	3.0	0.40								
2.2 湿度制御		3.0	1.0	0.20								
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.30								
<b>3 光・視環境</b>												2.8
3.1 昼光利用		0.2	2.8	0.25								
1 昼光率		0.3	2.4	0.30								
2 方位別開口		3.0	2.0	0.60								
3 昼光利用設備		3.0	3.0	0.40								
3.2 グレア対策		0.3	3.0	0.30								
1 昼光制御		5.0	3.0	1.00								
3.3 照度		3.0	3.0	0.15								
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25								
<b>4 空気質環境</b>												3.3
4.1 発生源対策		0.2	3.3	0.25								
1 化学汚染物質		0.5	3.0	0.50								
4.2 換気		3.0	3.0	1.00								
1 換気量		0.3	3.3	0.30								
2 自然換気性能		3.0	3.0	0.33	自然有効開口面積:6.544㎡							
3 取り入れ外気への配慮		3.0	4.0	0.33								
4.3 運用管理		3.0	3.0	0.33								
1 CO <sub>2</sub> の監視		0.2	4.0	0.20								
2 喫煙の制御		3.0	3.0	0.50	室内禁煙							
3.0		3.0	5.0	0.50								
<b>Q2 サービス性能</b>												3.2
<b>1 機能性</b>												3.3
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.3	0.40								
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40								
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	-								
3 ハリアフリー計画	独自	3.0	3.0	1.00								
1.2 心理性・快適性		0.3	4.0	0.30								
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	5.0	0.50	天井高3.0m							
2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	-								
3 内装計画		0.3	3.0	0.50								
1.3 維持管理		3.0	3.0	0.30								
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50								
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50								
<b>2 耐用性・信頼性</b>												3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.0	0.31								
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48								
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80								
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	3.0	0.20								
1 躯体材料の耐用年数		0.3	3.1	0.33								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		3.0	0.23								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.23								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			5.0	0.09	床:ビニル床シートの為耐用年数20年以上							
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.08								
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.15								
2.4 信頼性		0.1	2.8	0.19								
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20								
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20								
3 電気設備	②	3.0	3.0	0.20								
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20								
5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20								

<b>3 対応性・更新性</b>			0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
<b>3.1 空間のゆとり</b>			0.3	4.0	0.31	-	-	-	3.3
1 階高のゆとり			-	4.0	0.60	-	-	-	-
2 空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40	-	-	-	-
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			3.0	3.0	0.31	-	-	-	-
<b>3.3 設備の更新性</b>			0.3	3.0	0.38	-	-	-	-
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	-
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	-	0.30	-	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			独自③	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	2.0	0.40	-	-	-	2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	2.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			独自④	2.0	0.50	-	-	-	-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	-	-	2.9
<b>LR1 エネルギー</b>			-	-	0.40	-	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=	3.0	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.50	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=	3.0	-	-	-	-	-
<b>4 効率的運用</b>			0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	-	0.30	-	-	-	2.5
<b>1 水資源保護</b>			0.1	2.2	0.15	-	-	-	2.2
1.1 節水			3.0	1.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			0.6	2.5	0.63	-	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減			独自②	2.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			独自②	3.0	0.24	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			独自②	3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自②	3.0	1.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			独自②	3.0	0.05	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自②	3.0	0.24	-	-	-	-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			0.6	3.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	-
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	-
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			①	#VALUE!	-	-	-	-	-
<b>2 地域環境への配慮</b>			0.5	3.3	0.50	-	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止			独自①	5.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			独自①	3.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.5	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			独自①	3.0	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			独自①	3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制			独自①	3.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			独自①	1.0	0.25	-	-	-	-
<b>3 周辺環境への配慮</b>			0.5	2.8	0.50	-	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音			独自①	3.0	1.00	-	-	-	-
2 振動			独自①	-	-	-	-	-	-
3 悪臭			独自①	-	-	-	-	-	-
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			0.4	2.6	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制			独自①	3.0	0.60	-	-	-	-
2 砂塵の抑制			独自①	1.0	0.20	-	-	-	-
3 日照阻害の抑制			独自①	3.0	0.20	-	-	-	-
<b>3.3 光害の抑制</b>			0.2	3.0	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			独自①	3.0	0.70	-	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			独自①	3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>N. A</b>
LR3-1 地球温暖化への配慮	0.0	0.00	/
<b>② 資源の有効活用</b>			
Q2-2 耐震性・信頼性	3.0	0.09	/
Q2-3 対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2 非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1 生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			<b>1.0</b>
Q3-2 4) 地域性のある素材による良好な景観形成	(評価ポイント)	0.0	-
Q3-3.1 I 2) 地域性のある材料の使用	0.0	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 東部中学校仮設校舎賃貸借

計画上の配慮事項	
総合	周りは田園地帯で環境も良く、周囲からの見通しも良い上、すっきりした外観である。
Q1 室内環境	自然換気有効開口面積が居室面積の1/15以上であり、室内禁煙としている。
Q2 サービス性能	広く感じる空間になるよう天井高3.0mを確保している。
Q3 室外環境(敷地内)	空地率が高く風の通り道を十分に確保している。
LR1 エネルギー	教室の全体が、外皮に2方向面しており自然採光、自然通風を取り入れている。
LR2 資源・マテリアル	ODP=0の冷媒を使用し地球温暖化対策に取り組んでいる。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐輪場を確保している。導入路は交差点を避け周辺道路への渋滞緩和に値する。
その他	特になし